

令和六年度

こども未来会議室

報告書

#未来をつくるのはわたしだ

大人も子どもも関係ない。
このまちの主人公は「わたし」。
さあ、この夏
まちを創るワルーになろう！

もくじ

はじめに P. 1

こども未来会議室の概要 P. 2

市民団体の紹介 P. 4

みなさんからの提案と市の回答 P. 6

1. 道路や交通安全の充実 P. 6

2. もっと環境によいまちに P. 14

3. 船橋をもっと盛り上げよう P. 18

4. 船橋をもっと住みやすいまちに P. 29

5. 学校（学習）の改善 P. 36

実現した主な提案 P. 41

本番の様子 P. 46

はじめに



中学生の皆さん素晴らしい提案をありがとう！

船橋市長 松戸 徹

平成26年度に始まった「こども未来会議室」は、今回で10回目を迎えました。「こども未来会議室」の事前学習で素晴らしい提案を考えてくれたみなさん、また、夏休みの貴重な時間に各校の代表として「こども未来会議室」に参加してくれたみなさん、本当にありがとうございました。

今回の提案は、地域を活性化させる提案や、美化活動に関する提案が多くあり、これからの時代を担うみなさんから、船橋の未来を真剣に思う提案がされたことを嬉しく、また、頼もしく感じています。今回の提案も、どれも新鮮で素晴らしいものばかりでした。

本事業にご理解、ご協力をいただいた各校の先生方、保護者の皆様、そして、1回目から企画と運営に携わっていただいている市民団体の皆様にも、心からお礼を申し上げます。

みなさんからいただいた素晴らしい提案に対して、市としてどのようなことができるのか、市役所の部署のみではなく、関係する様々な団体の方とも真剣に協議を重ねて、この報告書を作成しました。

実現できるかどうか話し合いを続けていく提案や、実現に長い時間がかかる提案もありますが、みなさんの熱い思いはしっかり届いています。若いみなさんがこれからも社会の主人公として、頑張ってくれることを心から期待しています。

こども未来会議室の概要（令和6年度）

1. 事業名称

こども未来会議室 ～船橋の未来に“たね”をまこう～

2. 目的

こどもたちと市長が船橋の将来を語り合う場を設け、船橋市の現状をこどもたちに伝え、まちづくりを意識してもらいながら、将来を見据えた意見交換を行い、こどもたちの視点を活かした市政運営につなげます。また、こどもたち一人ひとりが社会を動かす力を持っていることを、「こども未来会議室」を通して体験してもらいます。

3. 企画・運営

「こども未来会議室」は、4つの市民団体（さざんか募金運動推進協議会、船橋商工会議所青年部、船橋法人会青年部会、船橋青年会議所）と市役所の若手職員でプロジェクトチームを立ち上げ、事前学習の資料やポスターの提供、各校の発表時や各校への質問を行う意見交換等が有意義なものになるように、企画から運営まで行っています。

4. 対象学校・対象学年・参加人数

対象学校：市内28中学校（公立26校、私立1校、
県立船橋夏見特別支援学校）

対象学年：2年生

参加人数：各校2名（県立船橋夏見特別支援学校：1名）



七林中の事前学習



二宮中の事前学習

5. 事前学習

「こども未来会議室」の開催前に市立中学校全26校で実施した事前学習は、2年生全員が参加し、船橋市の良いところや問題点などについて話し合いが行われました。この事前学習では、一人ひとりが船橋の将来についてしっかりと考え、船橋市民であることを自覚し、地域の発展にかかわる意欲を持ってもらうことができたと思います。



葛飾中の事前学習

6. 実施内容

第1部 テーマに沿った意見発表

「こども未来会議室」のテーマ【「私たちが市長になったら〇〇します！」～魅力あるまち船橋へ～】について、各校の代表となった2名の生徒が事前学習でまとめた意見を市長に向けて発表しました。

学校ごとに工夫を凝らし、「学校の設備を改善します！」「障害者への理解をより深めます！」といった学校生活や学校教育に関する提案のほか、「空地を利用したこどもたちの居場所を作ります！」「ヘルプステーションを設置します！」といった日常生活に関する提案、「船橋市の祭りを外国人の方にも知ってもらいたい！」「船橋の特産物を使ったレシピを広めていきます！」といった地元愛にあふれた提案など、様々な提案が市長に伝えられました。

発表後は各校で意見交換を行い、市長から、提案一つひとつに対して市の現状や今後の取り組みなどについて丁寧に説明がありました。

第2部 市長室見学ツアー

市長室では、市長から、市長室全体の案内や仕事内容、市の様々なことを決定する「決裁」に関する説明などがありました。その後、市長の椅子に座り、市長、船えもん、ばか面おどりの踊り手と一緒に記念撮影をしました。

代表生徒のみなさんは、市長の説明に熱心に耳を傾けており、市職員でもなかなか入ることのない市長室に興味津々の様子でした。



第1回



第2回



第3回



第4回

7. 開催日時

様々な地域の生徒と意見交換ができるよう地域を混合し、4回に分けて開催しました。

開催日	第1回	第2回	第3回	第4回
	7月29日(月)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)
参加校	船橋中	湊中	海神中	宮本中
	若松中	葛飾中	行田中	旭中
	二宮中	法田中	飯山満中	高根中
	七林中	御滝中	三田中	八木が谷中
	三山中	芝山中	古和釜中	前原中
	高根台中	習志野台中	大穴中	(私)千葉日本大学第一中
	坪井中	豊富中	小室中	(県)船橋夏見特別支援学校
学校数：計28校	7校	7校	7校	7校
生徒数：計55名	14名	14名	14名	13名

■開催時間 13:00～16:30

■開催場所：船橋市職員研修所及び市役所本庁舎9階市長室



8. 市民団体の紹介

「こども未来会議室」の開催にあたり、企画から運営まで携わっていただいた4つの市民団体を紹介します！

さざんか募金運動推進協議会

JR・東武アーバンパークライン船橋駅コンコースにシンボル像「さっちゃん像」があり、みなさんの待ち合わせスポットとして活用されていて、実は募金箱になっています。募金は主に、青少年健全育成のための事業などへの資金援助や、母子・父子家庭の高校生・障害児のための奨学金の給付などに使われています。



船橋商工会議所青年部

船橋商工会議所青年部（船橋Y E G）は、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、また、青年経済人として資質向上と日本全国の商工会議所との交流や国際研修事業などを通じ、己の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的としており、各委員会にて様々な事業を展開しています。

私たちは、船橋が本当に好きで、明るい豊かなまちにしたいと考える団体です。

※YEG（若き起業家集団）とは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneus Group）の頭文字をとったもので、商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野）を持った経営者＝Youth,Energy,Generalist を表しています。



船橋法人会青年部会

会社を経営するために、切っても切り離せないのが納税です。法人会は、全国に約100万社の会員企業があり、「税」をキーワードに健全な会社経営、経営者育成を目指し、研修会や専門的勉強会、親睦会など税務署や関係諸団体の協力を得て、様々な事業やイベントを開催しています。

その中でも青年部会は、50歳までの経営者や次世代の企業経営者になる若者に、更なるステップアップや、仲間を増やし友情を育むことを目的に掲げて、地域の発展と企業の繁栄を目指し活動している団体です。



船橋青年会議所

船橋青年会議所は、20歳から40歳までの青年が明るい豊かな社会の実現を理想とし、「修練」「奉仕」「友情」の3つの信条のもと、よりよい社会づくりを目指し、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいる団体です。

また、国際的な組織でもあり、世界125か国に17万人を超える会員がおり、日本では全国47都道府県698の地域に約3万6千人の会員がいます。40歳で卒業となりますが、卒業されたOBは世界で250万人以上おり、元米国大統領のビル・クリントンさんやマイクロソフト創業者のビル・ゲイツさんなども所属していました。日本では、元内閣総理大臣の小泉純一郎さん、その息子である小泉進次郎さんなども活動していました。

船橋青年会議所では、次代の社会の担い手、推進力として明るい豊かなまちづくりの実現のために、市民運動の先頭に立って活動しています。



みなさんからの提案と市の回答

1.道路や交通安全の充実

〈みなさんからの提案〉

道路を整備し、渋滞を解消します！

【三山中・湊中・豊富中】

自転車道の整備、バスレーンや地下道の導入、また、市内の北部と南部を繋ぐための新しい交通システムとしてLRT（次世代型路面電車システム）や路面電車を導入することで、市内の渋滞の解消及び南北の公共交通機関の充実を図る提案でした。



※各提案に対して、SDGsの目標に関連するものを表示しています。

〈市の回答〉（道路計画課・道路建設課・都市政策課・都市計画課）

〔道路整備について〕

道路交通法では歩道と車道の区別がある道路においては、自転車は車道を通行するよう定められています。市では、道路の路肩の広さに応じて、自転車の走る場所がわかるよう、市道については「自転車専用通行帯」や「車道混在型」での自転車走行環境の整備を行っています。令和5年3月に策定した「船橋市自転車ネットワーク整備計画」では、令和12年度末までに市道において約76kmの自転車走行環境のネットワークを整備する予定です。また、提案いただいた「両側にある歩道を片側ひとつにまとめ、歩道を広く使えるようにする」については、歩道が無くなる側に面している住居や店舗等へ大きな影響があります。このことから地域から要望があった場合は、沿道に住んでいる方や道路を利用している方などの意見を聞きながら検討していきます。



右図：市内の「車道混在型」での自転車走行環境の整備写真

〔地下道の整備について〕

現在の市で起きている渋滞の解決策として、地下道を利用するというのは、地上の道路を管理している国や県、新たに取得する土地所有者の協力が必要であることや地下トンネルを掘ることには大変時間がかかり、掘った土の処分や地上との新たな出入口の整備など、通常の道路を造るよりも高額な費用が必要である等、多くの課題が生じます。

このため、現在可能である対策として、市では新たな都市計画道路の整備や、交差点の右折レーン設置などの改良を行っています。また、渋滞の多くは、国道・県道といった交通量の多い道路で発生しているため、道路を管理している国や県に道路の整備を進めてもらうように引続き要望していきます。

将来のまちづくりを考える際は、50年、100年先の都市像を見据えて都市計画をしていくことが重要です。100年先の未来では社会情勢や土地所有者の状況も変化しているかもしれないので、今は実現が難しいものでも、都市の問題解決に有効な手法であるならば、長い時間をかけても考えていく価値はあると思います。

今後、都市計画を検討する際は、みなさんの提案も参考にさせていただきながら、様々な可能性を考えていきます。

〔LRT・路面電車について〕

LRTや路面電車の導入には、現道路の車道や歩道の幅を変えない場合、レール部分において単線で3m、複線では6m以上の幅が新しく必要となります。そのため、多くの用地買収が欠かせないことに加え、専用機器と施設の導入、レールの整備等、長い時間と多額の費用が必要となります。

道路の整備が大きな課題となっている船橋市では、現時点ではLRTや路面電車等の新交通システムの導入よりも道路環境の整備を優先したいと考えています。

しかしながら、今は実現が難しいものでも、市の問題解決に有効な手法となり得るかについて、長い時間をかけても考えていく価値はあると思います。市では有識者の方に意見を聞くため、みなさんの提案を紹介したところ、提案についてのご意見をいただくことができましたのでご紹介します。

～LRT（次世代型路面電車システム）の提案について～

船橋市都市計画審議会 会長

藤井 敬宏（日本大学理工学部交通システム工学科特任教授）

将来の夢と現実に向き合った面白い提案です。都市には、「暮らす」・「働く」・「憩う」そして「通う」という4つの機能があります。今回の提案は、「通う」という視点から、ダイナミックに都市のインフラを提案しましたね。

私は、約60年前、鉄腕アトムやスーパージェッターという、未来を題材にしたアニメを見て育ってきました。ビル群を縫うように造られた都市高速道路（今の首都高速道路の様）や、空飛ぶ自動車（今年の大阪万博でお披露目予定）、そして腕時計からAI知能を持った流星号という未来の車を呼ぶ（今のアップルウォッチや自動運転車）、などなど、夢の世界として紹介されていたアニメの世界は、今や、皆さんの生活の中で利用できるものになっています。

今回の提案では、フォアキャスティング（※1）の視点から、自転車を例に今ある問題解決を提案していること、そして、バックキャスティング（※2）の視点から、君たちが描く四半世紀先の船橋市に創造されるべき都市インフラを提案していること、この時間軸の両面からアプローチしていることが、とても良いと思います。

今回は、都市計画のアプローチとして、LRTの計画についてコメントします。

LRTは、欧州を中心にまちづくりの一環として整備されてきました。古くは、フライブルクで自家用車の旧市街地への乗り入れを規制し、LRTに利用転換する試みが行われました。市民がLRTを快適に利用できるよう、LRTの各駅には駐車場を整備してパークアンドライド（※3）を展開、週末には、一枚の定期券で家族が無料で利用できるようなレギオカルテ（地球環境定期券）を環境政策として実施し、自動車を使わないまちづくりが行われています。日本でも、富山市や宇都宮市で、コンパクトなまちづくりの取り組みや、工業団地の通勤時の道路の大渋滞の緩和策として、整備されてきています。

今回の提案は、『南部のJR船橋駅を中心とした都市拠点と、北部の北総線小室駅の交通拠点までを新たなモビリティで結ぶ幹線交通軸の形成』と位置付けられますね。

では、どのような人たちが利用するか、LRTの整備に必要なものは何か、イメージしてみてください。

例えば、アンデルセン公園に来る人はどんな方たちでしょうか？ 夏休みや土日は多くの家族連れで、暑い日は小さなテントやクーラーボックス等のキャンピング用品を自家用車で持ち込む人もいます。LRTを利用してもらうには、公園内で用具のレンタルやレギオカルテのような公共交通を利用しやすくさせるためのインセンティブが必要です。

また、平日は、県外も含めた多くの自治体から観光バスで児童・生徒、生涯学習の方々が参集しています。小室駅周辺では、都心から外郭環状道路を介して成田空港や圏央道に繋がる北千葉道路が、君たちの時代には完成し、自動車の利用環境が大きく様変わりしています。小室駅の南側は現

在、船橋市の貴重な資源である梨畑等が広がっています。その空間を仮に、交通拠点（船橋市の北側玄関の大規模なモビリティ・ハブ・センター）として位置付けて整備できれば、鉄道や観光バスの利用者、さらに自家用車で来園される方たちも、君たちが提案した LRT にシームレスに乗換えでき、環境負荷を軽減した新たなモビリティを活用した移動環境でアンデルセン公園を利用できるようになり、周辺道路の渋滞も緩和されることでしょう。

さて、船橋駅側はどうでしょうか？ 「高校などにつなぐ」の“など”が重要です。通学だけでは LRT を維持・継続することはできません。提案ルートに例えば、船橋市立医療センターや中央部の千葉徳洲会病院・東船橋病院、北部のセコメディック病院等の通院目的や、北部の船橋ハイテクパーク（工業団地）の通勤目的、そして船橋の商業地へ結ぶ買い物目的、“など”の利用目的の利用者が一体どれぐらいいらっしゃるのか、イメージしながら計画路線を結んでいくと、LRT の必要性がもっと具体性を持って見える化されてきます。

しかし、最大の難関は、軌道を確保する道路空間を確保することです。直近の問題点として道路整備への指摘がありました。車道＋自転車通行帯＋歩道に加えて、さらに軌道をプラスするのは、用地買収に多くの時間と費用が必要です。また、新京成電鉄（4月京成電鉄松戸線）との交差をどのような技術でクリアーするのも大きな課題です。

計画そのものの妥当性と地域の理解や受容性、そして技術力や資金面などの総合的な観点から検討が必要となります。

都市づくりの観点では、概ね 20 年間の時間軸で都市拠点を集約し、都市拠点間を幹線交通軸で結ぶという“コンパクトシティ・プラス・ネットワーク”政策があります。君たちが提案した船橋を南北に結ぶ交通軸は、船橋の将来の都市活動を大きく変える可能性があります。自身が住んでいる街「船橋」の将来は、君たちが愛着を持ちながら、描き、創造することで誇れる自慢の街にどんどんビルドアップされていきます。

若い皆さんの更なる発想力と行動力に加えて、実現に向けた熱い思いの醸成を大いに期待しています。

※1（フォアキャスティング：過去のデータや実績などから、未来の目標に近づけようとする方法）

※2（バックキャスティング：未来のある時点に目標を設定し、現在すべきことを考える方法）

※3（パークアンドライド ：自宅から最寄りの駅内停留所等に自動車で移動し、そこから公共交通機関を利用し、目的地まで移動する方法）

〈みなさんからの提案〉

道路に安全施設を増やし、歩行者の安全を守ります！



【海神中・古和釜中】

通学時や日常生活の中で、道路を通る際に感じた危険箇所（道路の凹凸、街灯の少なさ、ガードレールのない道など事故の危険性の高い道）を安全にするために、道路の修繕、速度抑制対策、街灯及びカーブミラーやガードレールの増設、また、既存の安全施設の適切な維持管理をすることで、安心・安全な道づくりを目指す提案でした。

〈市の回答〉（道路維持課・道路建設課・自治振興課・商工振興課）

〔道路の段差・凹凸の解消〕

市では、道路の凹凸や段差など通行に支障がある箇所の修繕を行っていますが、もし気になる箇所がありましたらご連絡をお願いします。現地を調査して、必要な箇所については修繕を行います。また、市では「船橋市道路損傷通報システム」(※1)を運用しており、LINE で道路の不具合を通報できます。早期発見が事故や怪我を未然に防ぐことにつながりますので、ぜひ友だち追加をして利用してみてください。みなさんのお友だちや家族にもお知らせください。

【道路維持課 維持第一・第二係 連絡先 047-436-2618】



※1 このコードを読み取り、友だち追加することで、利用できます。

〔速度抑制対策〕

市では、住宅地などにあって日常的に利用される道幅の狭い道、いわゆる生活道路における人優先の安全・安心な通行空間を確保するため、警察と連携し「ゾーン 30 プラス」の整備を行っています。令和 4 年 3 月に県内初となる「ゾーン 30 プラス」を古作地区に整備し、令和 5 年度までに 4 地区、令和 6 年度は新たに 2 地区の整備をしています。今後も地元町会等から要望をいただいた地区について、整備を進めていきたいと思っています。また、「ゾーン 30 プラス」の地区以外でも、道幅が狭いにもかかわらず走行する車の速度が高い道路や交通量の多い道路の速度抑制対策として、ハンプや狭さくの設定について地元の方々と協議し取り組んでいます。

右図：左からゾーン 30 プラスの表示、

凸状に見えるイメージハンプ、
ゴム製のポールによって車道が狭い状態



〔照明施設〕

まちを明るく照らしている照明施設は、「道路照明灯、商店街街路灯、防犯灯」の3種類あり、用途によって設置者が異なります。

① 道路の安全のための「道路照明灯」

夜間の道路交通の安全を図ることを目的とした道路照明灯は、市内の主要な道路や公共施設に面した道路などに約2,700基あり、市が設置しています。過去の「こども未来会議室」で“船橋のまちを明るくしてほしい”との提案を受け設立した「道路照明灯設置に関するプロジェクトチーム」にて、「船橋市道路照明灯及び道路街路灯設置基準」を策定し、道路照明灯・道路街路灯の設置に関するルール作りを行い、夜間交通の安全性向上を図っています。普段生活している中で、危険や不安と感じる場所がありましたら、市にメールや電話で相談してください。現地調査を行い、設置について検討していきます。

【道路維持課 維持第一・第二係 連絡先 047-436-2618】

② 商店街を明るく照らす「商店街街路灯」

明るい魅力ある商店街環境を作り、商店街の販売促進と消費者の利便を図るため、商店会が設置しています。市では、商店街街路灯の電球交換や整備を行う際に補助金制度を設けてその活動を支援しています。なお、街路灯がLED化されていない商店街に対しては、令和4年度に限り補助額を増額することで、早期のLED化を積極的に促しました。これにより、令和5年度中には、すべての商店街街路灯がLED化されました。

③ まちの防犯のための「防犯灯」

船橋市内には約42,000灯の防犯灯（街灯）が設置されていますが、その設置や維持管理は、地域の状況をよく知っている町会・自治会に行ってください、市では補助金制度を設けてその活動を支援しています。平成26年度から防犯灯のLED化が進み、地域の方から、以前よりも明るくなったとの声も寄せられています。今後も市民の皆様から暗い場所の指摘があった際には、町会・自治会とご相談のうえ、適切な設置をお願いしてまいります。

〔カーブミラー〕

カーブミラーについては、普段生活している中で、設置を要望する場所がありましたら、市にメールや電話で相談してください。現地調査を行い、設置する際の条件に合った場所には、カーブミラーを設置します。設置できない場合には、注意喚起のために、交差点に色をつけるなどの路面表示の設置や看板の設置等、別の安全対策を検討します。

【道路維持課 保全係 連絡先 047-436-3222】

〔ガードレール〕

ガードレールについては、普段生活している中で、危険や不安と感じて設置を要望する場所がありましたら、市にメールや電話で相談してください。現地調査を行い、設置について検討していきます。道路にガードレールを設置するには、歩行者スペースを含め一定以上の道路の幅が必要となり、道路を広げるためには、道路沿いの住民の方に用地を提供していただくための協力を求めなければならず、すぐには対応が難しい場合があります。そこで、歩行空間を明らかにするため、道路に赤いゴム製のポールを立てる、緑色の帯状のカラー舗装をするなどの安全対策を行っています。

【道路維持課 保全係 連絡先 047-436-3222】

〔道路施設の維持管理〕

市では道路施設のパトロールを定期的に行っています。ただし、市内全域をパトロールするには時間がかかるため、皆さんが利用している中で気が付いたところがありましたら、「道路の段差・凹凸の解消」でも紹介した「船橋市道路損傷通報システム」やメール及び電話などにより教えていただき、カーブミラーなどの不具合をいち早く直せるように努めています。皆さんからの通報は貴重な情報源であり、道路施設の維持管理にかかせない助けとなります。早期発見が事故や怪我を未然に防ぐことにつながりますので、皆さんが安全・安心に道路を使えるよう、これからも様々な取り組みを続けていきます。

【道路維持課 保全係 連絡先 047-436-3222】

〔参考〕

◎「ゾーン 30」、「ゾーン 30 プラス」について

市では、生活道路における人優先の安全・安心な通行を確保するために警察と連携し、「ゾーン 30」、「ゾーン 30 プラス」を整備しています。「ゾーン 30」は、定められた区域（ゾーン）の車両の最高速度を時速 30 キロに規制するもので、これまでに市内 26 地区を整備しています。「ゾーン 30 プラス」は、「ゾーン 30」に車両の通行部分の幅を狭める“狭さく”などの物理的デバイスを適切に組み合わせ、交通安全の向上を図るものです。令和 4 年 3 月に県内で初めてとなる「ゾーン 30 プラス」を導入し、令和 5 年度まで 4 地区の整備をしています。令和 6 年度においては新規の整備を 1 地区、「ゾーン 30」から「ゾーン 30 プラス」に変更する整備を 1 地区でおこなっています。今後も警察と連携を行いながら、安全・安心に暮らせるまちづくりを推進していきます。



図：ゾーン 30 プラスの表示・標識

2.もっと環境によいまちに

〈みなさんからの提案〉

機能付きのごみ箱を導入し、ポイ捨てを抑制します！



【七林中・三田中・高根中・古和釜中】

ポイ捨てをする人を減らすことで生活環境を美しく守り、公衆衛生の向上を図りたいという思いから、自動でゴミを圧縮するスマートゴミ箱の設置、回収したプラスチックゴミから作るSDGsゴミ箱の設置、市のキャラクターである船えもん等の形をしたゴミ箱の設置、ゴミ箱を増設するといった様々なゴミ箱による対策で、市内のポイ捨てやプラスチックゴミをなくし、環境を守りたいという提案でした。

〈市の回答〉 (クリーン推進課・公園緑地課・資源循環課・道路管理課)

〔スマートゴミ箱の設置・キャラクターの形をしたゴミ箱の設置・市内のゴミ箱を増やす〕

スマートゴミ箱はゴミを圧縮することで多くのごみが捨てられ、満杯に近づくとき通信で知らせてくれるため、溢れる心配がない等多くのメリットがあり、とても良いものだと思います。また、人気キャラクターをデザインしたゴミ箱など、「思わず捨てたくなるゴミ箱」については、様々な国や地域で設置され、実際に効果が出ている場所もあります。

しかし、ゴミ箱の設置は、捨てる方が便利になる一方で、「家庭ゴミ」や「事業ゴミ」が捨てられる等のデメリットが存在することから、ゴミ箱を設置するということには多くの課題があります。

また、公園の利用に際しては、ゴミの持ち帰りにご協力をお願いしており、古くなり壊れてしまったゴミ箱から順次撤去している状況です。

道路や歩道にゴミ箱を設置することについても、道路法という法律により設置することができなくなっています。国からも、道路上のゴミ箱は美観の維持や道路環境の浄化に支障となるので、ゴミ箱があっても撤去するよう指示されています。そのためご提案のありました道路や歩道にゴミ箱を設置することは困難であると考えています

市では、ポイ捨て防止対策として、今後も「クリーン船橋 530 の日」や「船橋をきれいにする日」といった市内一斉清掃の実施などで市民の方々と一緒に環境美化に取り組めます。

〔SDG s ごみ箱の設置〕

ごみとして捨てられたプラスチックのうち、ペットボトルについては分別収集し、中間処理施設である船橋ビン・カン・ペットリサイクルセンターで選別した後、売却しています。令和3年度に、ペットボトル以外のプラスチックごみの資源活用について検討しましたが、資源として活用する前段階の選別や梱包といった処理をするために新たな中間処理施設の建設が必要となり、多額の設備投資や運営維持管理費が必要となるにも関わらず、温室効果ガスの削減効果は小さいとの結果となりました。

このことから、現段階ではその他のプラスチックごみは焼却することが妥当であると考えており、プラスチックごみからごみ箱を作成することは困難であると考えます。

〔参考〕

〔クリーン船橋 530 の日〕

毎年5月の最終日曜日に開催しているイベントです。

市内全域の道端に散乱するごみを一掃することで、ごみのない住み良い地域「環境にやさしいまちづくり」の啓発運動としています。

令和6年度は、約5,270人の方々の参加があり、市内全域で約14.4トンのごみが集まりました。

〔船橋をきれいにする日〕

毎年11月の第3日曜日に開催しているイベントです。市内全域の道端に散乱するごみを一掃することで、船橋をきれいなまちにすると共にポイ捨て防止の啓発運動としています。

令和6年度は、6,069人の方々の参加があり、市内全域で約13.2トンのごみが集まりました。



図：「船橋をきれいにする日」の様子

〈みなさんからの提案〉

資源ごみを有効活用し、市を活性化します！

【葛飾中】

ペットボトル等の資源ごみを学校で集め、集まったごみを売却し、市に寄付することで、ごみの有効活用と市の活性化の両立を図るという内容でした。その実現に向けて、効率的にごみを集めるためにポスターやSNSを活用し、船橋市民全体を巻き込み、さらに魅力あるまちにしようという提案でした。



〈市の回答〉 (資源循環課)

ごみを活用することでまちを活性化し、世界一愛であふれる美しいまちを目指すという発表は、夢あふれるすばらしい提案であると感じました。ペットボトルなどの資源ごみは、ごみ収集ステーションで分別収集し、中間処理施設である船橋ビン・カン・ペトリサイクルセンターで選別した後、売却され市の収入になっています。資源ごみを売却して得た収入を有効活用し、より一層ごみのない美しいまちを目指していきます。

また、市では集めたごみを効率的かつ適正に処理するため、市民のみなさんに分別してごみを出していただけるようお願いしています。正しい分別方法をみなさんに周知するため、XやYouTubeなどのSNSや、ふなばし情報メール、ホームページ等を活用しています。

今後は、InstagramやTikTokといった若年層向けのショート動画による周知や、民間企業等とコラボレーションする等、みんなで魅力的なまちをつくっていききたいと思います。



図：「ペットボトルの出し方」の
市 HP 二次元コード

〈みなさんからの提案〉

ごみ処理で出た灰を肥料として有効活用します！

【宮本中】

ごみを焼却した際に生じた灰を植物の肥料などに有効活用し、ごみを循環させることにより、クリーンなエネルギーの活用を目指す提案でした。



〈市の回答〉 (資源循環課・公園緑地課)

清掃工場で燃やした後の埋立処分される灰を有効活用するために、灰が植物の肥料に使えることを実験で確認し、資源として循環させるという着眼点は素晴らしいと思います。

特定の廃棄物を燃やした後の灰を肥料として使っている事例はありますが、発表の中にもあったように、清掃工場に持ち込まれる廃棄物にはいろいろなものが入っていて、灰に有害物質が含まれる可能性もあることから処理方法が限られています。

そのため、肥料としては利用できていませんが、船橋市では灰を埋立て処分だけでなく、約6割は資源化施設で環境に影響がないように処理をして人工碎石やセメントの材料に活用しています。

灰を全て資源化していないのは、資源化施設が受け入れできる量には限りがあり、資源化は埋立て処分より費用がかかるためです。限られた予算内でできるだけ資源化するようにしています。



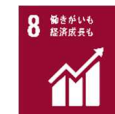
左図：灰を溶融させて作る人工碎石（溶融スラグ）

右図：灰から作られる人工砂（セメントの材料）

3.船橋をもっと盛り上げよう

〈みなさんからの提案〉

船橋市の祭りを外国人の方にも知ってもらいたい！



【船橋中】

市内の外国人が増えている中で、もっとたくさんの外国の方に船橋のお祭りを知ってもらいたいという思いから、国際姉妹都市提携を結んでいる市に船橋市の祭りに参加してもらい、船橋市のお祭りだけでなく、日本の文化にも興味を持ってもらいたいという提案でした。

〈市の回答〉 （商工振興課・国際交流課）

言語や生活習慣等の違いを越えた、心と心のふれあいをもたらす素晴らしい提案だと思います。

姉妹・友好都市の人たちが船橋市を訪問するとき、市内でお祭りが予定されていれば、積極的にご案内したいと思います。たとえば、ふなばし市民まつりでは、民謡パレードやものづくり体験など、当日誰でも参加できるプログラムがあるほか、神輿やばか面などの船橋の郷土文化に触れ、楽しむこともできます。もし、姉妹・友好都市の人たちが、市民まつりに参加する時は、市民まつり実行委員会と相談しながら、外国の方でも船橋や日本の文化に興味を持っていただけるように考えていきたいと思います。また、姉妹・友好都市の人たちだけでなく、市内在住の外国の方たちにももっと船橋市のお祭りや日本の文化を知ってもらえるよう、SNSなどで情報発信していきたいと思います。

〈みなさんからの提案〉

船橋の遺跡を有名にします！



【芝山中】

船橋市には主に取掛西貝塚、飛ノ台貝塚、宮本台遺跡群などたくさんの遺跡があります。しかし、市内の遺跡を知らない人が多いため、ポスター作成、イベントやワークショップの開催、貝塚をモチーフにした街灯・案内板の作成、また、飛ノ台史跡公園博物館のキャラクターである「エビゾーくん」を活用した広報等、様々な方法で遺跡を有名にしていきたいという提案でした。

〈市の回答〉 (文化課)

ご提案のとおり、児童・生徒をターゲットに保護者の方を巻き込んで遺跡のPRをすることは非常に効果的であると思います。

そのために、教育委員会では主に学校に依頼し、遺跡マップやパンフレット等を配布してきましたが、ご指摘のとおり、配布だけでは十分に知ってもらうことはできません。そこで、市内の遺跡について教材を工夫し学校の授業で学習できるように、教育委員会で検討していきたいと考えています。

また、毎年、市内の発掘現場の見学会を開催し、近隣の小中学校に開催のチラシを配布しています。見学会には児童・生徒たちだけでなく、保護者の方も一緒に参加しています。見学会は直前に決まることが多いため、ポスターでの宣伝は難しいのですが、講演会などのイベントについては、ポスターの掲示場所も工夫できないか、検討していきます。

貝塚をモチーフにした街灯等、まちに取り入れるという提案については、将来の史跡整備計画と合わせて実現できないか、検討したいと思います。

エビゾーくんによる宣伝については、現在のところ、遺跡説明板や刊行物、博物館での展示やクイズの景品、生涯学習チャンネルの動画等で利用しています。今後、イベント等、目に触れやすいところから活用できればと考えています。

取掛西貝塚を有名にするために、文化課ではホームページに動画を載せたり、SNSで発掘の様子などについて配信をしています。また、ご提案をいただいた謎解きスタンプラリーも令和6年度には「ふなばし歴史・文化クイズラリー」として実施しました。郷土資料館や飛ノ台史跡公園博物館でも企画展などの機会にクイズラリーを実施しており、勾玉作りや粘土で縄文土器・土偶を作ったりするワークショップは、飛ノ台史跡公園博物館で年間プログラムとして実施していますので、是非興味をもって、多くの人を誘って参加してみてください。



図：「取掛西貝塚」の市 HP 二次元コード

〔参考〕

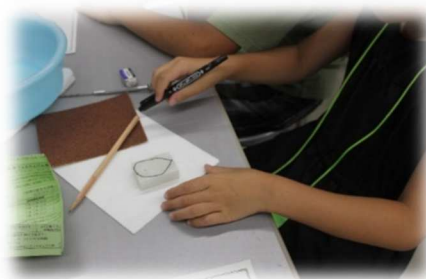
◎ふなばし歴史・文化クイズラリー

令和6年11月15日～令和7年2月28日に開催していたイベントです。

クイズのチラシを手に入れて、船橋駅周辺にある15ヶ所の歴史・文化関連スポットをめぐるクイズに挑戦。各スポットには説明板などクイズのヒントがあり、みなさん足を運ばれました。クイズの回答は、文化課や郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館に行ってお答え合わせ。参加賞の他、5問以上の正解で、景品をもう一つプレゼントしました。

◎飛ノ台史跡公園博物館におけるワークショップ

飛ノ台史跡公園博物館では、土日を中心にワークショップを行っています。令和5年度までは1年に30件ほど行っており、令和6年度からは約90件に回数を増やしています。博物館に来て「見る」だけでなく、粘土で形を作ったり、石を削ったり、紐を編んだりして縄文時代に暮らした人たちへの理解が深まるきっかけになればと思います。



図：飛ノ台史跡公園博物館におけるワークショップの様子

図：「ふなばし歴史・文化クイズラリー」の紹介チラシ

〈みなさんからの提案〉

船橋の特産品を活用した、市民交流の場となる梨マラソンを開催します！



【千葉日本大学第一中学校】

船橋には、「市民同士の交流が少ない」、「特産品が活用されていない」といった課題があると考え、特産品である梨を活用したマラソン大会を開催し、小学生から高齢者までの幅広い世代が参加することで、市民同士の交流の活性化を促し、また、規格外の梨を用いた梨ジュースを提供することで、食品ロス削減や特産品の活用を目指すという提案でした。

〈市の回答〉 （生涯スポーツ課・農水産課）

船橋の魅力を生かした素敵なお提案ありがとうございます。

「船橋のなし」という市の特産品を活用しスポーツを通じて交流の場ができることは、市の魅力をより多くの方々に知ってもらうとても良い機会になります。また、梨ジュースの提供にあたって廃棄となる梨を活用できれば食品ロスにも役立ちますので、農家の方々にご協力いただきたいと思います。

現在、船橋市マラソン・駅伝大会を開催するために、船橋市マラソン・駅伝実行委員会を組織し、実施方法などを決定しています。提案にありました公道（住宅街）での開催は安全確保の観点から課題が多いため、現状のマラソン大会等を基に、梨を活用した大会運営について船橋市マラソン・駅伝実行委員会とともに検討していきます。

また、「船橋のなし」が出荷される時期にマラソン大会が企画された際には、給水地点での梨や梨ジュースの提供、入賞者への景品、来場者が試食できるよう、農業協同組合や梨の生産者団体である船橋市果樹園芸組合に相談していきます。

〈みなさんからの提案〉

農業体験イベントを増やし、第一次産業を活性化させます！



【二宮中】

現在、第一次産業の担い手が減少している中、農業体験イベントを増やし、様々な媒体で農業体験を広報することで、若い世代を中心に第一次産業への関心を深め、船橋の第一次産業を活性化させたいという提案でした。

〈市の回答〉 （農水産課・広報課）

現在、農産物の収穫体験や調理体験を行う親子アグリツアーや農業センターでの校外学習、学校（学童）農園、市民農園、市民園芸講座など農業を体験できる様々なイベントや機会があります。若手農業者の方と相談しながら、農業従事者の増加につながる体験も含め、農業体験の幅を広めていきたいと思います。

また、こういった農業や農家の体験イベントを市民の皆さんに知っていただくため、広報紙など色々な方法でご案内しています。例えば、今年度の広報ふなばし 5 月 15 日号では「船橋の旬をいただきま〜す！」というタイトルで、船橋産のニンジン、小松菜、枝豆について生産者へのインタビューと一緒に紹介しました。併せて、地場野菜の即売会や、行田にある農産物直売所「ふなっこ畑」についても掲載しました。他にも 8 月 1 日号では「船橋のなしを召し上がれ！」というタイトルで、旬を迎えた梨について、開花から実が育って収穫するまでの生育の様子を掲載し、抽選で 20 人に梨 2 個をプレゼントする企画や、広報ふなばし 9 月 15 日号では、「船橋の旬を食べよう〜親子アグリツアー」というタイトルで、船橋市内のサツマイモ畑での収穫体験とスイートポテトの調理・試食イベントを紹介しました。

広報紙以外でも、今年度のふなばし CITYNEWS（ケーブルテレビの広報番組）では、6 月 1 日放送で「5 月 27 日は小松菜の日 船橋の小松菜を食べよう！」と題し小松菜農家を紹介したほか、11 月 15 日でも「船橋産あま〜いトマトの秘密」や「冬を彩る色鮮やかな花 船橋のシクラメン！」を紹介しました。市のホームページ、X や Facebook などの SNS、チラシやポスターの掲示などイベントの紹介方法はたくさんあります。新聞やテレビで取り扱ってもらうために、市長の定例記者会見やプレスリリースなどで新聞やテレビの記者に情報提供もしています。今後も農業体験の幅を広め、様々な媒体で広報していきます。



図：「ふなばし CITYNEWS（広報番組）」の二次元コード

〔参考〕

◎親子アグリツアー

船橋の農業の魅力に触れる機会として、小学生とその保護者を対象に、農産物の収穫体験と調理体験を行う「親子アグリツアー」を開催しています。昨年度はイチゴの収穫体験とイチゴを使ったパンケーキの調理体験、今年度はサツマイモの収穫体験とサツマイモを使ったスイートポテトの調理体験を行いました。



図：サツマイモ収穫体験の様子



図：サツマイモを使ったスイートポテトの調理体験の様子

〈みなさんからの提案〉

「船橋の日」をつくります！

【八木が谷中】

船橋の特産品である、梨やスズキ、ホンビノス貝等を市場や地域のスーパー等で安く買える「船橋の日」を制定することで、市民に特産品を広く知ってもらうとともに地産地消の促進を図る提案でした。



〈市の回答〉 (農水産課)

消費者としては農水産物を安く買えることは非常に魅力的ですが、生産者としては収入を上げることが農水産業を続けていく上でとても重要なので、高い値段で買ってもらえるような価値の高い農水産物、例えば「船橋のなし」「船橋にんじん」のようなブランド化を図った農産物をつくることを目指しています。地産地消や地元生産者の応援になりますので、ぜひ値段に関係なく船橋産の農水産物を購入したり、市内に数多くある直売所を利用してみてください。

また、小学校の給食に船橋産農産物を提供し、児童に地元農産物のおいしさを知るきっかけを提供する「学校給食船橋産農水産物活用事業」を実施しているほか、農産物の即売会を開催し特産品の周知に努めています。

〔参考〕

◎農水産祭

船橋の新鮮でおいしい農水産物を市民の皆さんに PRするとともに、生産者と市民の皆さんが触れ合う場として農水産祭を開催しています。農水産祭では農水産物の即売に加え、船橋産の農水産物を調理した模擬店やキッチンカーも出店するなど、地元ならではの新鮮な農水産物を味わうことができます。

また、農水産物に関する〇×クイズや卵のつかみ取りなどの来場者が楽しめるイベントも実施しています。



図：コノシロを用いた料理を販売する様子



図： 農産物の即売会の様子

〈みなさんからの提案〉

船橋の特産物を使ったレシピを広めていきます！

【高根台中】

船橋の特産品が多くあるなかで特産品を活かしたレシピを知っている人が少ないことから、中学生の家庭科の授業で特産品を活用したレシピを考え、形が悪い等の理由で廃棄となってしまう特産品を使った料理を商業施設のフードコート等で提供することで、特産品を使った料理に触れる機会を増やし、多くの市民に特産品の活用方法を知ってもらい、地産地消の促進や特産品を広めていこうという提案でした。

〈市の回答〉

（農水産課・指導課）

船橋産の特産物を使ったレシピについては、ご覧いただいた市ホームページ以外にもブランド農産物の紹介ページで公開しているほか、農業協同組合や漁業協同組合が発行するリーフレット等に掲載されており、イベント時に配布するなど周知を行っています。

また、船橋市は有数の春夏にんじんの産地で、「船橋にんじん」は特許庁から地域団体商標の認可を平成25年1月25日に受けています。「船橋にんじんまつり」は例年5月に東武百貨店船橋店で開催されており、船橋にんじんを使用したパンや餃子、かき揚げ、サンドイッチなどが販売されています。レシピを広めることが特産物の消費につながりますので、引き続き農業協同組合や漁業協同組合と協力してレシピの周知を行います。

学習内容の根幹である「学習指導要領」では、中学校家庭科の食生活の学習において、「中学生の1日分の献立について考え、工夫すること」「地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること」という記載があります。市内の多くの学校では、献立作りの授業でも地産地消を意識した献立を考えたり、学校栄養士をゲストティーチャーに招いた授業を行ったりしています。



図：「ブランド農産物」の市 HP 二次元コード



図：「船橋にんじんまつり」のチラシ



〈みなさんからの提案〉

船橋の北部エリアに新たな施設を作り活性化させます！



【前原中・豊富中】

県民の森の使われていないアスレチックを、カフェ等の憩いの場にすることで県民の森を有効活用し、また、北部エリアに特産品の直売所を設けた道の駅を作ること、市内の人だけでなく、市外の人にも特産品を知ってもらおうとともに、アンデルセン公園やメグスバ等の自然や施設を活かして、北部地域の活性化を図るという提案でした。

〈市の回答〉 〈政策企画課・農水産課〉

現在の北部地域は緑豊かな環境に恵まれており、樹林地などの自然環境や農地等は保全していく必要があると考えています。まずは、既存の施設としてメグスバや青少年キャンプ場、アンデルセン公園、沿道の直売所などが点在していますので、これらの施設を有効活用することが地域の振興につながるものと考えています。

また、国道464号北千葉道路の（仮称）小室インターチェンジの整備が予定されており、新たな価値が生み出される可能性があります。人口減少や高齢化が進む北部地域に、地域とともにつくる賑わいの場として「道の駅」をつくり、船橋市のことを多くの人に知ってもらい、訪れてもらうことは、新たな価値を活かすひとつのアイデアだと考えます。現時点において「道の駅」の整備は考えていませんが、自然環境や農地等の保全とともに、国道464号北千葉道路の整備状況等を注視しながら必要性について検討していきます。

船橋県民の森は、千葉県が管理運営を行っている施設となっています。県と市が話し合う機会もありますので、「憩いの場としてカフェを作る」をはじめとした、北部地域の活性化に関する皆様の提案については千葉県に伝えさせていただきます。

〈みなさんからの提案〉

商店街を有効活用し、地域を活性化させます！



【法田中】

商店街の多くは閉店しているところが多くなってきており、それに伴い活気や地域の人との関わりがなくなっていることから、長期的に人が集まり、地域全体がにぎわうような取り組みとして、空地を利用した休憩所の導入、スポーツ観戦ができる場所、既存の建物を使ったこども食堂、空家を活用した無人販売所等を作ることで商店街の有効活用や活性化を目指す提案でした。

〈市の回答〉 (商工振興課・こども家庭支援課・市民安全推進課)

〔商店街の活性化〕

商店街の空地や空家などを利用した取り組みは、全国各地で広がっています。ご提案のあった「自習スペース」としての活用は、学生ならではの視点であり、とても面白い活用方法だと感じました。ぜひ商店街の方々にも提案してみようと思います。

また市では、空き店舗に出店する方に対し、改装費などを補助する事業を行っています。基本的には飲食店での出店が多いのですが、皆様が提案したような内容での出店も可能ですので、様々な事業者にも周知していき、空き店舗の解消及び商店街の活性化に努めていきたいと思っています。

〔空き店舗のこども食堂への活用〕

こども食堂は、地域のボランティアの方々を中心に、会食やお弁当の配布など様々な形式で運営され、食事だけでなく地域交流もできるこどもの居場所のひとつとなっています。市内 40 か所で実施されており、年々その数は増えています。法田中学校区の丸山中央商店会にも実施いただいているこども食堂があります。開催される曜日や時間帯は、各団体によって様々ですが、多くは土日・休日を中心に月 1～2 回の頻度で開催されています。提案いただいた、賑わいを生み出し孤食を防止するための商店街でのこども食堂の実施には、空き店舗の活用や既存の飲食店での開催等が考えられます。

また、平日にも開催する日が増えれば、より一層の地域交流の活性化やこどもの見守りにつながると考えられます。

これらを実現させるためには、開催場所の確保に加え、より多くのボランティアの方々の協力や食材など、人や物の手配も必要になるため、こども食堂の運営団体の皆様や商店街の方々の意見を聞きながら、こども食堂を宣伝したり、場所の確保の手伝いなどをしていきたいと思っています。

〈みなさんからの提案〉

小室地区伝統の獅子舞を広めます！



【小室中】

小室地区の獅子舞を、小学校などでの体験教室や獅子舞に関する資料の掲示を船橋の主要な施設等で行う事で、獅子舞を船橋市の新たな魅力とし、観光客の集客につなげ、継承者の不足により休止していた小室地区の獅子舞を残していこうとする提案でした。

〈市の回答〉 （文化課）

小室地区の獅子舞は、平成 20 年より休止の状況が続いています。

伝承者の思いとして、小室地区の獅子舞は芸能ではなく神事であるとの思いが強く、そのために昔からある獅子講（地区の農家）を越えて伝承することは考えていないとの意思を休止時に伺っています。平成 2 年から 20 年近く小室中学校においてクラブや総合学習で小室地区の獅子舞を地域の方がこどもたちに教えておりましたが、それも継続できませんでした。また、休止となった 16 年前、すでに伝承者の年代は 70 代であったことから、現在改めて演じるということは非常に厳しい状況だと思います。

市には映像資料や過去の取材資料がございますので、各学校などに提供し活用することで、皆さんに知ってもらえたらと思います。

〔参考〕

◎小室地区の獅子舞

小室地区の獅子舞は毎年 8 月 21 日の本覚寺の施餓鬼会と八朔（はっさく）の日（現在の 9 月 1 日）に演じられてきました。

演じるのは小室獅子講で、代々小室町の人々によって構成されてきました。

獅子舞の由来は不明ですが、古くから豊作祈願や悪魔祓い、疫病退散の効果があるとされてきました。三匹の獅子が太鼓を腰につけ、打ち鳴らしながら舞います。

船橋の伝統を伝える貴重な文化財であり、昭和 39 年 4 月に県の無形民俗文化財に指定されました。



図：小室地区の獅子舞の様子

4.船橋をもっと住みやすいまちに

〈みなさんからの提案〉

案内表記の言語を増やし、外国人にも住みやすくします！



【船橋中】

市内に住んでいる外国人の方は、中国人の方が多いにも関わらず、案内表記の言語は日本語と英語の表記が多い状況です。そのため、他の言語を使われる外国の方が住みやすいよう、特に日常生活上で利用する事が多い場所を中心に、案内表記の言語の種類を増やすという提案でした。

〈市の回答〉 (都市計画課・道路計画課・商工振興課・国際交流課)

〔市で設置している公共サイン〕

市では船橋駅を始めとした主要駅の周辺に周辺案内地図や公共施設への距離や方向を示す各種「公共サイン」を設置しています。この「公共サイン」について、訪れた方の利便性や安全性の向上を図ることを目的に、平成 27 年に「公共サインガイドライン」を作成しました。このガイドラインでは誰もが理解できるよう中国語を含めた 4 言語（日本語、英語、中国語、韓国語）を表記することなどが示されています。平成 28 年以降に設置された一部公共サインでは、読みやすさ・見やすさを考慮し、すべてではないですが既に中国語も表記されています。

市内に設置している様々な案内看板の中には、すでに二次元コードがついていて、市ホームページにアクセスできるものもあります。例えば、ごみ収集ステーションの案内看板や、主要駅の周辺案内図などです。このうち、ごみ収集ステーションの案内看板の二次元コードは、日本語のページにしかアクセスできませんでしたが、外国語（英語・中国語・韓国語・スペイン語・ベトナム語・ネパール語）に翻訳された案内にもアクセスできるよう、対応しました。

また、J R 船橋駅周辺と J R 西船橋駅周辺に設置されている駅周辺案内地図には、地図に表示している絵文字（ピクトグラム）を、日本語・英語・中国語・韓国語で説明しているものもあります。

今後は、ホームページ上で外国語に翻訳された情報の充実を図ることや「やさしい日本語」等により、ご提案いただいた「船橋市の国際化について」を推進していきます。

〔公共交通機関の多言語表記〕

公共交通機関各社は観光庁の示す「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」に基づき、駅構内等の表記を行っています。そのガイドラインでは、英語の併記を基本として、施設や地域特性から英語以外の表記の必要性が高い施設については、中国語または韓国語、その他の必要とされる言語を表記することが望ましいとされています。そのため、各社とも英語の表記は行い、必要性が高いと思われる部分は中国語や韓国語の表記を併記しています。

しかしながら、中国語表記を必要とされる方は増加している現状がありますので、公共交通機関各社には中国語を含めた多言語表記について検討していただくよう要望していきます。

また、令和6年10月に船橋駅南口のエスカレーターに京成線への案内を多言語表記（英語・中国語・韓国語）で設置しました。令和7年1～2月にバス事業者が船橋駅北口バスロータリーでバス停をデジタル表示可能なバス停への更新と、バス案内用のデジタルサイネージを設置しました。中国語も含めた多言語表記のものとなりますので、ご興味がありましたらぜひご覧ください。

〔商店の多言語表記〕

ご意見のとおり、日用品店やスーパーマーケットの多くでは、日本語表記のみのところが多いです。スペースの関係や、経費の問題などもあるかとは思われますが、いただいたご提案内容は、商店街やスーパーなどに提案していきたいと思います。

〈みなさんからの提案〉

コミュニティバスを導入し、高齢者の移動手段を増やします！



【若松中・古和釜中】

市内に高齢者が増えている中、バスの減便等の影響で高齢者の移動手段が減っていることから、運転手不足にも対応できる大型免許の必要ない車を用いたコミュニティバスの導入や、バスの増便をすることで、住みやすいまちを目指す提案でした。

〈市の回答〉 (道路計画課)

バスの本数が減っている原因は、コロナ後にリモートワーク等の新しい生活様式が定着して乗る人が減っていることはありますが、運転手が足りないことが一番の原因です。また、2024年4月に運転手の労働時間改善を目的に、運転手の仕事ができる時間が短くなったため、今までの本数の維持にはそれを補う新たな運転手が必要となり、運転手不足の理由の1つとなっています。運転手が増えない限り、バスの本数を増やすことはできません。運転手が足りないことは大きな課題と考えており、運転手不足を解消するため、船橋市としては路線バス事業者に集ってもらい、運転手の合同募集説明会を開催しています。

また、鉄道駅やバス停から一定以上の距離がある地域を公共交通不便地域と呼んでおり、その公共交通不便地域の解消は課題となっています。提案のありましたコミュニティバスは公共交通不便地域解消の1つの手段ではありますが、特定の地域だけに運用されるコミュニティバスは費用面と公平性の問題から船橋市での導入は難しいと考えています。

その代わりとして、65歳以上の方が利用できる高齢者支援協力バスという自動車学校送迎バスの空席や老人福祉センター送迎バスの空き時間を活用して公共交通不便地域を通る無料バスや、地域住民と路線バス事業者と市の三者で協力して路線バスを走らせるといった事業を実施しています。この中で田喜野井地区では提案にありましたようにハイエースで運行しています。朝・夕のラッシュ時は1台では乗り切れず2台で運行していますが、昼間の時間帯は空席も多く利用者が伸び悩んでいる状況です。また、坪井地区で「時速20km未満」で公道を走ることができる「電動車を活用」した「小さな移動サービス」、グリーンスローモビリティの実証運行を実施しました。地域のボランティア運転手で公共交通不便地域の問題を解決できないか検証した結果、継続を求める地域の声が多かったので、来年度以降の長期的な運用を予定しています。

コミュニティバスの導入やバスの増便ではありませんが、以上のような事業で地域の皆さんの移動手段を確保していきたいと考えています。

〈みなさんからの提案〉

空地を利用したこどもたちの居場所を作ります！



【行田中】

中学生になると外で遊ぶ・安らげる機会や場所も減ってきているという状況から、空地を利用し「遊び場」「学び場」「食べる場」を兼ね備えた「こどもの居場所 sky」を作ることで、こどもの自主性を育む居場所づくりを目指す提案でした。

〈市の回答〉 （青少年課・地域子育て支援課・公園緑地課）

年齢や障害の有無を問わず、すべてのこどもが等しく安心・安全に過ごせる居場所の重要性は市としても認識しています。

空き地を活用したこどもの居場所づくりに当たっては、土地の確保、土地の所有者・周辺住民との合意形成が課題といえます。まず、提案のあった、多数の遊具を設置し、ボール遊びや花火などが自由に行えるような「こどもの居場所 sky」を設置するためには広い土地が必要であり、また、学習スペースを設置するためには建物の建設も必要となりますが、条件を満たす土地の確保には多くのハードルがあり、土地の造成や遊具の整備等、多くの費用がかかることが見込まれます。また、周辺住民との合意については、特別に自由な居場所としての利用を地域から容認されるには、地域住民との対話や説明会などを通じて理解を得るため、多くの時間が掛かります。

「こどもの居場所 sky」を構成する要素のひとつである冒険遊び場については、公園等を活用した居場所の1つとしてプレーパークという活動が行われています。現在は、5つの市民団体により長津川親水公園、薬円台公園等の公園や緑地などで活動しています。プレーパークは自分の責任で自由に遊ぶことをモットーに、自然遊び（泥遊びや水遊び、落ち葉遊び等）、木にロープを張るブランコ遊び等、なるべく禁止事項をなくし、やってみたいことを自分のペースで挑戦できることを大切にしながら、自然の中でのびのびと遊べる場を地域の方たちと作っています。これらのプレーパーク実施団体等と協力しながら、こどもたちの居場所や遊びづくりとして市が取り組んでいる放課後子供教室や大神保青少年キャンプ場等、現存の施設を活用して定期的にこどもの居場所となりうる遊び場の創出に取り組むと考えています。

皆さんの身近にある公園も、小さなお子様からお年寄りまで各々違った形で利用しており、全ての方が安心安全に利用できるようルールを設けています。また、障害がある方でもない方でも一緒になって遊ぶことができるインクルーシブ遊具の設置を進めており、今後も整備に努めていきます。



図：プレーパークで落ち葉遊びをする様子

〈みなさんからの提案〉

空家を有効活用し、こどもたちの集まる場所を作ります！



【飯山満中】

空家問題を解決するために、空家をリフォームして公民館や児童ホームのようなこどもの居場所を作り、こどもたちの預かりや、勉強会、DIY 教室の開催等を行い、地域との交流につなげるとともに、こどもたちの過ごしやすい新しい形の集まる場所を作るという提案でした。

〈市の回答〉 （市民安全推進課・地域子育て支援課）

空家を児童ホームとして活用するには、遊戯室や図書室、体育室などの設備整備が必要となりますので、一般的な個人が所有する空家を活用するのは難しいものであると考えています。しかしながら、所有者の特定把握が難しいなどの課題はありますが、児童ホームと同じくらいの設備の整備をしないのであれば、小規模なリフォームをして、空家をこどもの居場所として活用することは可能ではないかと考えられます。

なお、提案の中にありました、共働き世帯のこども預かりの場としての空家の活用は、放課後ルームに入りたいのに入ることが出来ずに待っているこどもたちのために、小学校の近くに空家があれば、そこでこどもたちを預かり安全に過ごすことができると考えていますので、今後検討していきます。

〈みなさんからの提案〉

ボールが使える公園を増やします！



【古和釜中】

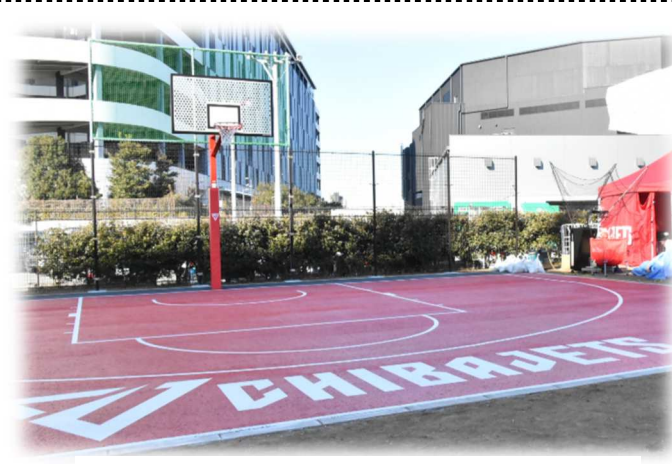
学区内にボールが使える公園が少ないので、ボールが使える公園を市内に増やし、ボール遊びができる広場だけでなく、バスケットゴール等の設備の種類も増やした公園を作ることで、こどもたちの遊ぶ場所や種類を増やしたいという提案でした。

〈市の回答〉 (公園緑地課・生涯スポーツ課)

平成 26 年度の「こども未来会議室」での提案を受け、平成 28 年度より 3 年間、どうしたら公園でボール遊びができるのか、いくつかの公園で試しながら、ルールづくりを行ないました。その成果として「公園でのボール遊びパンフレット」を令和元年 7 月に作り、市内の公立中学校に毎年配っています。また、ボール遊びができる施設は、平成 28 年度に 5 公園で始めましたが、令和 6 年度には公園 16 か所、まちかどスポーツ広場 13 か所、その他運動広場 2 か所の合計 31 か所に拡大しています。

バスケットゴール等の設備については、運動公園には既に一般用のハーフコートがありますが、令和 6 年度にはジュニア用のハーフコートを整備するとともに、浜町中央公園にも「千葉ジェッツふなばし」と協力し、新たにバスケットゴールを設置しました。今後も、公園の規模、周辺環境等を踏まえ、ボール遊びに適した公園を増やしていきたいと考えています。

公園やまちかどスポーツ広場は、散歩や小さなこどもたちの遊びの場など、幅広い世代が様々な形で利用しています。大きな音を出したり、夜遅くに利用したりするとご近所の迷惑になります。ボールを利用する際には周囲に気を配り、譲り合って利用してもらうことが大切です。このような配慮ある行動は、ボール遊びのできる施設を増やす際に地域の皆様の理解を得ることにつながりますので、協力をお願いします。



図：浜町中央公園のバスケットコート

〈みなさんからの提案〉

ヘルプステーションを設置します！



【県立夏見特別支援学校】

障害者をはじめとし、妊婦、高齢者や赤ちゃんのいる方などの困難を抱えた方の助けとなるヘルプステーションを、相談窓口や休憩所としての機能を持った施設として駅の近く等の人の集まりやすい場所に設置したいという提案でした。

〈市の回答〉 〈障害福祉課・福祉政策課・地域福祉課・こども政策課・地域保健課・地域包括ケア推進課〉

〔ヘルプステーションの設置について〕

障害者や、高齢者、妊産婦、地域住民など、年齢や属性を問わず、市民の方が気軽に立ち寄って休憩やちょっとした相談をしていただける、ヘルプステーションの設置について、公共施設、商店街の店舗や福祉関係の事業所などで、試行的な設置を念頭に、関係部署と協議の上検討します。

〔参考〕

◎実施している相談窓口等

市内4か所の保健センターでは、妊婦・母子・成人を対象とした健康教育や健康相談を実施していて、母子が安心して来館できるよう授乳室や、おむつ替えスペースが用意しており、夏季期間は熱中症対策として一時休憩できる施設（クーリングシェルター）になっています。

高齢者の総合相談窓口としては、地区ごとに地域包括支援センターを14か所、在宅介護支援センターを15か所設置しています。高齢者に関する相談があった際に、管轄のセンターをご案内いただければと思います。

障害者のための相談窓口としては、市内の4か所に障害者（児）総合相談窓口を設置しています。障害者ご本人だけでなく、障害のある児童の保護者や障害者の介護を行う家族等からの相談に応じ、必要な情報提供や支援を行っています。

5.学校（学習）の改善



〈みなさんからの提案〉

障害者への理解をより深めます！

【旭中】

未来を生きる今のこどもたちに障害者のことを理解してもらい、障害者も過ごしやすいまちをつくりたいという思いから、障害に関する授業を増やしたり、特別支援学校と交流を行い障害者が身近にいる環境を体験することで、正しい知識と理解を得て、支えあえる社会を目指す提案でした。

〈市の回答〉 （指導課・障害福祉課）

学校においては、多くの小中学校で総合的な学習の時間に福祉教育を探究課題として定め学習を進めています。障害者（児）福祉、高齢者福祉について取り上げる学校は多くありますが、知的障害や精神障害についてはふれることがあまりないというのが現状です。特別支援学級が設置されている学校も増えてきていることから、障害について理解していくことも大切だと思います。特別支援学校との交流にあたっては学校間の距離などを考慮する必要もありますが、実際に交流している学校もあり、障害についての正しい理解を図るために、特別支援学校の先生に授業をしてもらうこともあります。総合的な学習の時間の計画や特別支援学校との交流については、各学校が計画を立てて実施しているので、今回いただいた提案を学校にも伝えていきます。皆さんからも障害に関する授業や障害者の方たちとの交流を持ちたいと、生徒会活動や相談箱（意見箱）などを通じて学校に提案してみてください。

また、市では障害のある人への理解を深めるために、障害に対する理解啓発を行うことが、あらゆる人にとって住みよい社会になると考えています。そのため、今後も障害のある人について知るための理解啓発パンフレットを市内小学校に配布するとともに、授業の資料として使用していただけるよう依頼していきます。その他にも市民の方全てに障害への理解を深めてもらい、障害のある人の社会参加を進めるため、イオンモール船橋で障害のある方が作製した絵画・書等の作品展やデファスリート講演会等を内容とする、障害者週間記念事業という催しも引き続き実施していきます。

〈みなさんからの提案〉

学校においしい水が飲める施設を作ります！



【坪井中】

夏の暑さにより水道水がぬるくなっていることや、持参した水筒の中身がすぐに無くなってしまう生徒が多いことから、学校にウォータースタンドや浄水器・製氷機を設置し、いつでもおいしい水を飲める環境にしたいという提案でした。

〈市の回答〉 〈保健体育課〉

みなさんが提案していただいたおいしい水を飲むために、浄水器や製氷機を設置した場合は、衛生面での管理が必要となり、フィルター交換など先生方の負担を増やすこととなってしまいます。

また、浄水器や製氷機を導入する場合、一部の学校だけでは不公平となるため、中学校 26 校全ての学校に導入することとなります。全生徒が使えるように校舎の数か所に設置することとなった場合、その設置や維持管理に係る費用は数千万円になります。

市の予算は限られているため、みなさんの学ぶ環境を充実させるために優先順位を考え予算を公平に使っていく必要があります、今年度は暑さからみなさんの命を守るために体育館へのエアコン設置を進めていました。

意見交換でもありましたように、水道水を飲みたくない場合は水筒を大きいものにするとか、複数本用意するなど、各ご家庭から持参するようご協力をお願いします。

〈みなさんからの提案〉

学校の設備を改善します！



【御滝中・習志野台中】

流しやトイレの数が生徒人数に比べて少ない、学校施設が狭い等、学校生活で我慢をすることへの改善や、校舎の電灯のLED化、使用されていない屋上にソーラーパネルの設置、梅雨の季節は、校庭が使用できないので、一部を人工芝にするといった学校設備の改善を目指す提案でした。

〈市の回答〉 (施設課・ゼロカーボンシティ推進室・危機管理課)

〔流し・トイレの改善、校庭への人工芝設置〕

みなさんが快適な学校生活を送れるよう、これまで校舎内にエアコンを設置したり、トイレを改修したりしています。学校から要望されたことは、できるだけ改善できるよう検討していますが、流しやトイレの改善については物理的にスペースがないため、現在の校舎内に数を増やすことは難しく、校庭の人工芝生化については整備費用が多額となります。市内の学校施設全体をみると、古い校舎がたくさんあるため、今後いくつもの校舎を建て替える必要があります。そうしたことも踏まえて、みなさんの学習環境を向上させるために、限られた予算の中で何から整備するか、効果的な手法はどうすればいいのか、といったことを検討し、取り組んでいきます。

〔電灯のLED化〕

市では、「船橋市地球温暖化対策実行計画」においてゼロ・カーボンへの挑戦を目標に掲げており、市の施設から出る温室効果ガスの削減を目的に、学校を含む公共施設について新築・改築、設備の更新等を行う場合は、再生可能エネルギーやLED照明等の省エネルギー設備の導入を推進しています。また、学校の照明器具が壊れた時にはLED器具へ交換し、周辺のいくつかの器具も一緒に交換するなどLED化を進めています。

〔屋上にソーラーパネルを設置〕

市では、小中学校を含む避難所になっている公共施設（全128施設のうち106施設）に、太陽光発電設備の設置を進めています。太陽光による発電は温室効果ガスの排出がないため、環境にやさしい電気を学校内で使用することになります。御滝中学校では今年度に工事が完了し、令和7年の4月以降から太陽光発電が開始されます。設置後は再生可能エネルギーの価値や地球温暖化対策の重要性について学習できるようにするため、二次元コードを利用した発電量の見える化を進めています。

〈みなさんからの提案〉

学校の無駄をなくし、二酸化炭素の排出を削減します！



【大穴中】

学校における給食の牛乳パックのストローレス化や学校に置かれている新聞、保護者あての手紙等を電子化することでペーパーレス化を行い、二酸化炭素削減を目指す提案でした。

〈市の回答〉 〈保健体育課・指導課・総合教育センター・資源循環課〉

〔ストローレス化〕

ストローレス対応の牛乳パックを導入し、ストローを廃止するご提案がありました。ストローを使わないことにより、年間で約2.4トン（ストロー約800万本）のプラスチック削減が見込まれます。身近で関心の高い学校給食で牛乳のストローレス化を進め、環境問題、環境学習につながるご提案をありがとうございます。

現在市内の小・中学校と特別支援学校に学校給食用の牛乳を納品している会社は2社あり、そのうち、ストローレス対応の牛乳パックがある会社は1社です。ストローレス対応無しの会社へ、ストローレス対応の牛乳パックへの導入予定を確認してきましたが、その都度、検討しているものの導入は未定との回答をいただきました。

学校の取り組みについて令和6年7月現在の状況を調べたところ、学校全体でストロー不使用に取り組み、ほとんどの児童生徒がストローを使わずに牛乳を飲んでいる学校は8校あり（小学校6校、中学校2校）、これらの8校は全て、ストローレス対応の牛乳パックが届いている学校でした。ただし、どの学校でも、さまざまな理由によりストローを使う児童生徒がいるとのことでした。また、ストローレス対応無しの牛乳パックを使用している学校でも、一部の児童生徒はストローを使わずに牛乳を飲んでいることが分かりました。

そこで、環境問題、環境学習につながるストローレスを進めるため、牛乳アレルギーのある児童・生徒や、小学校低学年、特別支援学級に在籍する児童・生徒への配慮、マイカップやマイストローの利用希望の申し出など、児童・生徒の状況に合わせ、学校ごとに対応したうえで、令和7年4月から全ての市立小・中学校でストローを使わずに飲むことに取り組みます。

また、ストローレス対応の牛乳パックの導入を、牛乳を納品している会社へ引き続きお願いするとともに、小・中学校の授業補助時やごみの減量及び資源化啓発紙「リサちゃんだよりプラス」で学校給食用牛乳のストローレスの取組について取り上げ、中学校に配付する等、周知を図ります。

〔ペーパーレス化〕

学校に配付している新聞は、新聞に慣れ親しみ、活字を見る機会を増やすことを目的に、市内の新聞販売同業組合の方々が無償で提供してくれているものです。著作権などの問題もあるため、無償提供されている新聞をデータ化することができないこと、デジタル新聞には購読料がかかることなどの理由から新聞のデータ化は難しい状況にあります。

保護者への手紙のペーパーレス化については、各学校に導入されている「学校安心メール」や「Google Workspace」を用いて取り組んでいます。みなさんが提案していただいた手紙のデータ化の実現はこういったツールを用いれば可能ですので、ぜひ使ってみてください。

また、市では環境負荷への低減への取り組みとして、新聞やプリントなどの紙類は有価物として回収し、再生紙としてリサイクルしていますので、ペーパーレス化で対応しきれない紙類に関しては、分別して排出するようご協力をお願いします。

実現した主な提案

平成26年度に始まった「こども未来会議室」では、みなさんの先輩たちが、みなさんと同じように船橋をよくするための提案を真剣に考えてくれました。その提案は、これまでにいくつも実現しています。

音楽会で演奏に合わせた演劇を通して、詐欺被害防止の注意を促します！

「音楽会で演奏に合わせた演劇を通して詐欺被害の防止の注意を促したい。さまざまな年代が集まる音楽会であれば、詐欺の被害が増えている若い世代にも注意喚起ができる」という提案から船橋市交響吹奏楽団による演奏と二宮中学校の生徒6人による演劇のタイアップという形で「プロジェクト〈F〉～詐欺を撲滅せよ～」を開催されました。令和6年5月26日に船橋市民文化ホールで開催された船橋市交響吹奏楽団 第53回定期演奏会において実現されました。〔令和5年度提案 二宮中〕



学校の体育館にエアコンを設置します！

体育館にエアコンを設置することで、体育や部活動などの学校生活が快適になるうえ、学童や地域のイベント時など、さまざまな場面で熱中症予防になります。また、避難所となる体育館ですので、避難生活のことも考え、体育館にエアコンを設置したいという提案から、令和6年度に市内中学校と特別支援学校の体育館にエアコンの設置が実現されました。小学校の体育館については、令和7年度末までの設置完了を目指しています。〔平成28年度提案 法田中 ほか〕



船橋の知名度を動画による船橋映像コンテストでもっと有名にします！！

船橋の知名度をさらに上げるため、船橋映像コンテストを導入することで、多くのクリエイターからの様々な広報動画を集め、色々な動画で市の魅力発信を行うという提案から、「ふなばし動画&フォトコンテスト」を開催しました！「私のふなばし」をテーマに、動画や写真を通じて、船橋の魅力を発信することができました！〔令和5年度提案 三田中〕



千葉ジェッツふなばしとコラボして船橋を盛り上げます！（屋外イベント）

「誰でも気軽に遊びに来られて、船橋の魅力を詰め込んだスポーツワールドを実現させたい」「ジェッツをもっと多くの人に知ってもらいたい」という提案から、千葉ジェッツふなばしが快諾！！

「#This is Funabashi～中学生が創る未来へのSmile☺～」を2日間限定で開催をしました！

令和5年3月25・26日、浜町中央公園にバスケットゴールを設置し、気軽にバスケットボールに触れてもらうほか、ジェッツのアンテナショップやフォトブース等を設置し、多くの方が来場しました！〔令和3年度提案 行田中〕



千葉ジェッツふなばしとコラボして船橋を盛り上げます！（コラボ商品）

船橋産の梨を使った「船橋からのおもて梨まん」と、千葉ジェッツふなばしのキャプテン富樫勇樹選手の名前を盛り込み、船橋産のにんじんを使用した「勇樹ヤロットまん」を開発。令和3年3月24日のジェッツのホームゲームで300セットを限定販売し、大好評となりました！

〔令和元年度提案 坪井中〕



中学校を今よりグローバルな場にします！

日本語に不安を抱えている外国人のクラスメイトが、学校生活での不安を解消したり、生徒同士のコミュニケーションツールとして、市立小学校、中学校及び特別支援学校の全学校に、74言語に対応した音声翻訳機（ポケットーク）を導入しました。

〔令和元年度提案 坪井中〕



ポケットーク



ボール遊びができる公園をつくります！

公園でボール遊びがしたい！という提案から、近所の方や関係部署と話し合って遊び方のルールを決めるなど検討を重ね、現在、市内33の公園等でボール遊びができるようになりました。

今後も、ボール遊びができる公園等の整備を進めていきます。

〔平成26年度提案 行田中、古和釜中 ほか〕



「あったかほっかほか船橋」プロジェクトを実施します！

時間のある夏休み期間中にボランティア体験をしたいけれど、参加方法がわからない！という提案から、ボランティアを募集している団体や福祉施設等とマッチング会を行い、気軽にボランティアに参加できる「あったかほっかほか船橋」プロジェクトを行っており、毎年たくさんの方が参加しています。〔平成26年度提案 葛飾中〕



街灯を増やして街を明るくします！

街灯を増やして、より安全な街にしたい！という提案から、街灯を明るいLED照明に変更したり、暗い道があれば現地の調査を行い、必要かどうかを確認して街灯の設置を行う「船橋市道路照明灯及び道路街路灯設置基準」を策定しました。

〔平成26年度提案 行田中、古和釜中 ほか〕

フォトコンテストを開催します！

船橋市のことをたくさんの人に知ってもらうために、フォトコンテストを開催したい！という提案から、「ふなばし魅力発見フォトコンテスト」を開催しました。写真を通じて船橋の魅力を発信することができ、入賞作品で作成したポストカードは大好評でした。

〔令和元年度提案 飯山満中〕



入賞作品は市HPからご覧いただけます。

伝統文化をPRします！

船橋市には歴史のある場所が多くあることから、伝統文化について知ること、愛着をもってもらいたい！という提案から「ふなばし歴史・文化フォトラリー」を開催しました。

指定のスポットで写真を撮影するフォトラリーを通して、市内の歴史・文化財の展示施設を巡り、多くの皆さんにその魅力を感じてもらいました。〔平成30年度提案 前原中〕



「梨フェスティバル」を開催します！

船橋のなしをもっとみんなに知ってもらいたい！という提案から、例年行われている「船橋市なし味自慢コンテスト」の名称を変更し、平成29年8月29日にららぽーとTOKYO-BAYで市制施行80周年記念「なしフェスティバル」が盛大に開催され、たくさんのお客様がいらっしゃいました！〔平成27年度提案 古和釜中〕



取掛西貝塚を有名にします！

令和3年10月に国史跡となった取掛西貝塚をもっと有名にしたいという提案から、市では、もっとたくさんの人に船橋の遺跡について知ってもらうために、遺跡マップや取掛西貝塚を紹介するパンフレットを作成し、各校や一般市民の方に配布しました。令和3年度は、皆さんにタブレットが一人1台配布されたのにあわせ、市内全小中学校に遺跡マップと取掛西貝塚を紹介するパンフレットやポスターのデジタル版を配布しました！〔令和3年度提案 高根中〕



本番の様子

第1回



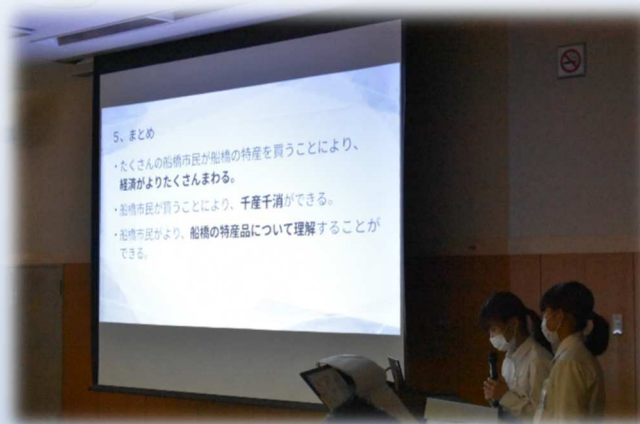
第2回



第3回



第4回





令和六年度こども未来会議室報告書

編集 集 こども未来会議室プロジェクト
事務局 船橋市 市長公室 市民の声を聞く課
発行年月日 令和7年3月